

100号を迎えて

だより想起

2004年 平成16年8月に広報誌
1号を発行。「はぐるまの」現在の題字は、

長野県

北八ヶ岳にある
山荘「白駒荘」の
方が、墨字でデザイ
ンして頂いたもの
を使っています。

もう一つの「はぐる
まだより」は、仲間
たち（利用者さん、
以下仲間と表記）の
登山のまとめ文集
があり、この初版は
昭和60年です。
以後毎年1回発行
を続けています。



そのどちらも、歴史を語るものとして
大変貴重な資料となります。

昭和60年代の仲間の文集「はぐるま
だより」からは、仲間たちの生きざまが見
えるような迫力があり、どのようにして
突き進んできたかが読み取れます。

第2号誌のスローガン

「仲間集団の力がつけばつくほど」

一人一人の力ものびる」
何を目指してきたのか、はぐるまのルー
ツを振り返る時に読み返したい文集です。

もう一方の「はぐるま」広報誌は、外
に向けて活動を発信していくためのもの
です。とりわけ制度については、皆さん
に分かりやすく説明する事に力を注いで
きました。発行当初は

「自立支援法成立」「福祉が変わります」
「来る福祉元年」「どこへ行く日本の福祉」
の様な見出しが毎号トップ記事でした。

No.100

2017年6月30日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区

菅馬場 1-18-17

TEL 044-946-1308

制度と具体的な変化を現場目線で伝えて
きたつもりです。これからも

仲間たちの活動を通して、はぐるまの生
き方をお伝えすることと、福祉の動向に
いつも敏感であり、今の時代を具体的に
わかりやすく伝えていく、「だより」であ
りたいと思います。

理事会・評議員会報告

社会福祉法改正後初めての会となります。
理事会 5月31日 評議会6月17日に
開催

《事業計画・報告》

一、企画室・管理本部

企画室は、経営と運営のサポート、「中期
経営計画」の立案に向けた準備を進め、
数値管理や課題解決のサポートを実施し、

組織の成長を導く「未来志向」で業務にあたります。

また、管理本部では、業務の専門性の向上「総務・経理のスペシャリスト化」を図ります。

二、事業本部

生活介護事業（作業所）

就労継続B型を廃止し4つの作業所すべて生活介護となりました。

○はぐるま共同作業所 食品加工作業

○第2はぐるま共同作業所 喫茶

○はぐるま工房 農作業

○はぐるま菅工舎 縫製工場（ふきん）

各作業所は作業工程の見直し労働の分析、仲間個々の労働技能の分析と、「労働」について考えてきました。そのうえで仲間たちがやりたい仕事、活躍できる仕事を、仲間自治会と話し合い、「仲間編成」を行いました。

特徴的なことは、はぐるま共同作業所が「食品加工」に取り組みます。パン・焼き菓子を作る専門の作業所となり、新しい分野への挑戦が始まります。

はぐるまの農園で採れた野菜が生かせるように、喫茶でも売れる食品にまで仕上げていきたいものです。

また仲間自治会の目標でもありました。【全部自分たちだけでできる作業所を作りたい】が現実的になってきました。

はぐるま菅工舎は、分析の結果全部仲間たちができる作業だと確認できましたので、ふきん製造工場となります。今まで2か所の作業所で作っていましたが、今後は菅工舎が一手に引き受けられます。

共同生活援助事業（グループホーム）

○高齢対応ホームの準備・整備

職員の介護技能・意識向上、変革研修・資格の獲得を行い、人材育成に力を入れます。現在喀痰吸引研修受講済み必要に応じて実地研修に入ります。

○多様なホーム体制を用意します

《生活型》元気で活動的に地域と関わる

《自立支援型》一人暮らしへ移行

《高齢対応型》・介護が中心となる

相談支援事業

2年間に亘り、皆様にご心配をおかけしてきた「はぐるま支援センター」が6月

1日に再開をいたしました。
管理者…小畑美帆
相談支援専門員…岡田圭司

はぐるま支援センターでは、

- ・仲間のいろいろな相談の受け付け
- ・区分認定調査の日程調整や立会い
- ・不服申し立ての補助
- ・受給者証情報の管理
- ・ヘルパー利用、生活保護、障害基年金の相談
- ・一般就労の相談
- ・成年後見制度の利用相談
- ・仲間ケース会議の開催
- ・支援センター便り（準備中）

・他には親のお茶飲み会会場貸出などのご相談を承ります。

また、利用計画相談（サービス等利用計画）では、仲間一人一人の福祉サービスのコーディネートを支援します。作業所、ホーム、ヘルパー事業所などを組み合わせ、1週間のスケジュールを立てます。

地域移行支援・地域定着支援では、主に、病院や大きな施設に長くいた人を対象に、地域で生活していけるよう支援します。まず、お気軽にご相談ください！

居宅介護事業

ヘルパーステーション みんと

○利用の依頼が多く寄せられますが、ヘルパーの確保、特に男性ヘルパーが少ないので、引き受けられないケースが多々あります。そのため

《登録ヘルパーの増員》

《ヘルパーの資質向上》障害の理解や支援技能を高めるための研修や資格取得に力をいれ、多くの需要にこたえられ事業所を目指します。

新しい職員さん紹介

看護師

篠原 都弥

(しのはら つや)



まだまだ不安と緊張でいっぱいですが、皆様と楽しく過ごせたら良いなあと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

第2はぐるま共同作業所

高橋 美和

私はこれまで精神に障害のある方のリハビリテーションに携わってきました。

作業所の仕事はまだまだ分からないことばかりですが、これまでの経験を活かしながら、お役に立てるように、努力していきます。どうぞ宜しくお願い致します。

はぐるま共働学習ホーム(第1ホーム)

井谷 巧

今年度から、はぐるまの会に参加させていただいてます。昨年まで東京都の教員をしており、後半の24年間は、特別支援学級関係の仕事をしていました。生徒の卒業後の生活の場で過ごせると思い、はぐるまのホームに来ました。よろしくお願致します。

第2はぐるま共働学習ホーム(第2ホーム)

梶田 美恵子

昨年の12月半ばに入職いたしました。以前は、今春小学校に入学した女の子と1歳上の兄の2人の孫を見ながら、手芸をしたり、読書をしたりして過ごしておりましたが、この度、私も何かお役に立てることがあるかな?と思い、第2ホームに勤務させていただくことになりました。

全く未経験の事ばかりですが、仲間たちを見守りながら、微力ながらお役に立て

ば・・と思っております。よろしくお願いたします。

第2はぐるま共働学習ホーム(第2ホーム)

武井 明美

1月に入職いたしました。仲間たちや職員さんにいつも元気を頂いております。よろしくお役に立てるよう努めて参ります。よろしくお願いたします。

第2はぐるま共働学習ホーム(第2ホーム)

高橋 姿子

4月にホームの調理とみんとのヘルパーをさせていただいています。7月から第4ホームの夜勤(宿直)にも入ります。いずれも初めての仕事で、日々あたふたしていますが、どうぞよろしくお願いたします。

第4はぐるま共働学習ホーム(第4ホーム)

竹井 佳代子

今年度5月から食事スタッフとして就業しました。長年コピーライターをしてきましたが、リストラを機に、以前から興味のあった料理の仕事がたくて転職しました。週4日、仲間達に美味しい夕食を提供できるよう頑張っています。

いづみホーム

金原 好之

今年の4月入職しました。以前は建設会社で仕事をしていました。仲間たちと早く慣れお役に立ちたいと思います。よろしくお願いいたします。

飛躍の年へ向けて

全体会 評価式 報告

平成29年6月15日、はぐるま全体会と評価式が執り行われました。

今年度は「飛躍への基礎作りの年」と位置付け、法人全体で将来を担う職員の教育と安定経営の為の財源確保を目的とした節約とコスト意識の徹底に取り組みます。

また、念願の拠点施設の建設計画を含む、中期経営計画を今年度末までに作成し、次年度の全体会の場で報告をさせていただきます。お約束をいたしましたので、1年間をかけ、仲間たち・ご家族・諸先輩方の想いを形にしていきたいと思えます。

今年度の評価式では、仲間たちが築き上げてきた労働の分析と技能の発表をし

ました！

【はぐるま共同作業所】

十三浜のワカメ海産物販売で獲得した技能と地域での宅配販売の歴史の発表



【第2はぐるま共同作業所】

喫茶事業を通して身に着けた力の発表
紙袋の製作における技能のライブ発表



【はぐるま工房】

農業の基本作業といえる草抜きの技能と野菜の計量と袋詰め技能の発表



【はぐるま菅工舎】

100%仲間たちの力だけで作られている自慢のフキンの製造工程を発表



以上の盛りだくさんの内容で大いに会場を沸かせました！

そして、毎年仲間たちが楽しみにしている表彰式では、日常の積み重ねの中で獲得してきた技能を高く評価され、大感謝の仲間たちでした！

現在では、新しい仲間たちの編成での生活がスタートをしています。新メンバーでの作業では、ぎこちなさが感じられますが、そこはたくましい仲間たちですので、アツという間に新しい生活と仕事に順応して貰えることと思います。

水沢の森に柵田が完成しました！

あおばホームとみどりホームの仲間たちは、毎月隣接する水沢の森（菅生緑地西地区）の里山保全活動に参加をしています。この度、新たにサルスベリ木が群生する森の中に、地域の皆様と協働で柵田を開墾し、記念すべき第1回目の田植えを実施してきました。



ゴールデンウィークの真ただ中の5月3日には、切り株の掘り起こしから土止め用の石の運搬まで大活躍をしました。水沢森人の会からは、大々的な感謝の言葉が贈られ、少し誇らしそうでした。柵田の方は、毎年枚数を増やしていく予定ですので、来年、新しい田んぼをご紹介します。楽しみにしております。

【地域課題の解決に向けて！】

はぐるま農園の野菜はいかがですか

「地元の野菜はいかがですか」と元氣な声が響きます！

はぐるま工房（稗原農園）の近隣自治会である菅生自治会からのお声掛けにより、自治会館にて、地元住民へ野菜販売を試みました。

近年、新聞紙面などで問題提起をされている高齢者を中心とした買い物難民や商



店の空白地域等の改善に役立つには、到底およばない小さな規模での取り組みなのですが、今後、地域のニーズをていねいにお聞きしながら、はぐるまならではの地域交流も含めた販売の形態に繋がっていきたいと思います。

稗原ゆ〜ずパーティを開催しました

「地域生活で孤立しているのは、お爺さんやお婆さんたち世代だけではないんですよ！若いママさん達も子育てや地域での暮らしの悩みを相談できる環境がなく、とても孤独なんです！」との相談を稗原小学校区連絡会（稗原ゆ〜ず連絡会）より相談を受け、子育て世代と地域住民とを繋ぐことを目的としたクラブト市「ゆ〜ずパーティ☆クラブト市」をはぐるまの会と連絡会で協働開催いたしました。参加者のママたち世代は、はぐるま稗原農園近隣に暮らす方々です！



販売デビューとなったパンと焼き菓子が、見事に完売をしました！

当日は、はぐるま共同作業所の総力を上げて焼き上げた手作りパンと焼き菓子（200点）が地域デビューし、いつも仲間たちの食事を支えてくれている（株）ルーメの協力により、はぐるま農園産の野菜をたっぷりと使用した焼き野菜カレーを提供し大好評を得ました！



立ち上げのイベントという事もあり、来場者数が伸び悩むのでは？と心配されていましたが、ママさんたちの素敵な手芸品を目当てに400名以上の方々が登場し、チビっ子くお爺ちゃんお婆ちゃんまでの世代間交流の場として大いに賑わいました！



初夏の菅生ヶ丘緑地にて



主催者の役員さんからは、「はぐるまの仲間たちの皆さんには、地域を繋げる力がある！」「これからも暮らしやすく魅力的なまちづくりへの協力をお願いしたい」と絶賛をされ、初夏のひと時は幕を閉じました。尚、ハーブソーセイジや農園産の野菜販売に加えてパンと焼き菓子を完売し、ちよっぴりとだけ儲けて来ましたので、ご安心ください。

仲間たちには、毎週のように地域からの依頼によるイベントへの参加協力をいただいております。感謝のひと言では言い表せないのですが、地域での豊かな暮らしの一部として楽しく継続していければと思います。

次号では、新体制でスタートをした各作業所からの情報をお届けさせていただきます。



はぐるま歴史上、最大数となる
200点のパンと焼き菓子の写真です。（見事に完売！）
仲間たち全員が製造工程に携われるよう、工夫をしました！

特にはぐるま共同作業所の食品加工作業に関しては、たくさんの準備と学習が必要となる事業ですので、職員の総力を結集した学習と仲間たちを中心とした作業工程の構築が要となります。
また、はぐるま内部だけでの資源だけでなく、地域の専門家や応援をいただいている皆様のお力をお借りしながら、ワクワクできる「仕事づくり」を目指していきたいと思っております。

今回、記念となる100号を無事にむかえられましたことを関係者の皆様に心より御礼申し上げます。
今後とも、はぐるまの会へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。